



〔11〕



一九六一（昭和三十六）年夏、伊那谷地方に甚大な被害をもたらした「三六災害」で大鹿村の大西山（一、七四一）が大崩落した際、三連アーチの小渋橋は、土石流に耐え抜いて変わらぬ姿を見せた。

南アルプス赤石岳（三、二〇〇）を源流とする小渋川。狭い峡谷から解放され、大鹿村大河原で青木川と合流する少し上流に架かる橋が小渋橋だ。

鉄筋コンクリートで長さ百六、幅五・五、支間は三四・四。雄大な自然と調和し、その景観が村民たちに親しまれてきたとして、二〇一一年に国の登録有形文化財に登録された。以前は国道152号の橋だったが、現在は国道が下流の新橋に移り、村道

### 小渋橋 (大鹿村大河原)



小渋橋から西側を眺めると、大西山崩壊地が見えた。四十二人の命を奪った土石流でも壊れなかった橋は、多くの村民を勇気づけた。大鹿小学校の児童たちは橋に花を飾り、手入れをしているという。橋を渡りながら、安らぎを感じた。  
(杵木良)

# 土石流しのぎ不変の姿